

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
服部 昌彦 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：社会を知るためには</p> <p>著者：筒井 淳也</p> <p>出版社：ちくまプリマー新書 ISBN： <u>9784-4-480-68382-3</u></p>	<p>社会学者の考える「社会」の捉え方と「社会」との付き合い方が平易な文章と豊富な具体例によって紹介された本です。</p> <p>複雑化した現代社会は、誰も全体像を把握出来ず、意図せざる結果が多く発生します。1958年の中国で行われた「大躍進政策」は、農作物の生産量増大を狙ってスズメの駆除を行いました。逆に農作物の生産量を激減させ、大量の餓死者を出しました。</p> <p>最終章は不安定な社会との付き合い方が紹介されます。一つ目は不安定に対して向き合う時間と逃避する時間のバランスをとること、二つ目はミスした人を安易に責めないことです。社会人に向けて有益なアドバイスになると思います。経済学と社会学の対比も書かれており、外から見た経済学も学べる名著です。</p>
<p>② 図書名：「決め方」の経済学</p> <p>著者：坂井 豊貴</p> <p>出版社：ダイヤモンド社 ISBN： <u>978-4-478-06487-0</u></p>	<p>最先端のメカニズムデザインを研究する坂井先生が書いた「決め方」に関する本です。最新分野を分かりやすい文章と簡単な数値例で紹介されています。</p> <p>ゼミやサークルなどで何かを決める時、多数決を行う人は多いのではないのでしょうか。本書は多数決がみんなにとって望ましい結果をもたらさない可能性を示唆しています。「決め方」にはいくつか種類がありますが、筆者の推しは1位3点、2位2点、3位1点といった点数付けを行うボルダールールです。その他の「決め方」に関しましても、その特徴が紹介されています。</p> <p>将来、色んな意見を基に大きな決断を下すこともあると思います。決断は「決め方」に左右されることを理解し、最適な「決め方」を選んで下さい。</p>
<p>③ 図書名：「イノベーターのジレンマ」の経済学的解明</p> <p>著者：伊神 満</p> <p>出版社：日経BP社 ISBN： <u>978-4-8222-5573-2</u></p>	<p>経営学者の発見した「イノベーターのジレンマ」を一流の経済学者が分析しています。近年注目されているデータサイエンスの中でも最先端の研究が紹介された本です。分厚いですが、軽快な文章は読むしんどさを感じさせません。</p> <p>「イノベーターのジレンマ」は業界のトップ企業が次世代のイノベーションについていけず、失敗することです。ジレンマはなぜ起こるのか、どうすれば対処できるのか、ジレンマは社会にどのような影響を与えるのか。こうした疑問にミクロ経済学と計量経済学を用いたデータ分析で挑んだ研究論文の内容が紹介されており、論文は経済学で最も権威のある研究雑誌に掲載されています。</p> <p>一方で、前提知識を必要とせず、気楽に読めるビジネス書といった雰囲気です。理論とデータ分析を併用した最新研究にぜひ触れてみて下さい。</p>